

## 第3回 福岡空港技術検討委員会 議事概要

### 1. 開催日時

平成22年7月7日(水) 15:00～17:30

### 2. 開催場所

福岡第二合同庁舎 2階 共用第2～4会議室

### 3. 出席者

#### (1) 委員 (五十音順)

浅野 直人 福岡大学教授

浦 清済 福岡空港ビルディング株式会社専務取締役

佐藤 学 定期航空協会専門委員

(代理出席:遠藤 弘太郎 定期航空協会企画小委員)

善 功企 九州大学大学院教授

長谷川 浩 国土交通省国土技術政策総合研究所空港研究部長

兵藤 哲朗 東京海洋大学教授

#### (2) 関係者

難波 喬司 国土交通省九州地方整備局副局長

松原 裕 国土交通省九州地方整備局港湾空港部長

傍士 清志 国土交通省大阪航空局空港部長

長谷川 武 国土交通省航空局空港部計画課空港計画企画官

稲田 雅裕 国土交通省九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所長

穴戸 文雄 国土交通省大阪航空局福岡空港長

金子 英幸 福岡県企画・地域振興部理事

野間口 毅 福岡市経済振興局空港整備推進担当部長

### 4. 議事

- (1) 第2回委員会における指摘事項とその対応(案)について
- (2) ターミナル施設のゾーニングと用地拡張規模の検討について
- (3) 航空保安施設、工事工程、概算事業費の検討について
- (4) 費用便益分析の検討について
- (5) その他

## 議事概要

### (1)「第2回委員会における指摘事項とその対応(案)について」

事務局より第2回委員会における指摘事項とその対応(案)について説明がなされた。

また、参考2の福岡空港の総合的な調査段階で設定した案の概要及び環境面における検討内容と参考3の航空需要予測の計算過程の整理について説明がなされた。

委員より、

- ・総合的な調査時において、既存の資料などを基に、環境面の評価項目ごとに特徴を整理するなどの検討がなされており、調査段階としては十分であり、かつ公共事業の調査・構想段階における好例を示したと言える。

などの意見が出された。

- ・滑走路高さについては、周辺への影響を最小限にする第3案を基本として検討を進めることについて、了承された。

### (2)「ターミナル施設のゾーニングと用地拡張規模の検討について」

事務局よりターミナル施設のゾーニングと用地拡張規模の検討について説明がなされた。

委員より、

- ・非常にコンパクトに、現空港内におさまる絵となっている。
- ・拡張用地に伴う河川の付替えについて、どの程度の内容か。
- ・貨物地区が、現状と将来で同程度の面積に見えるが、需要予測では中国の経済発展に従って、貨物が増加するようになっているが、その需要増加にも対応できる規模となっていると理解してよいか。
- ・貨物物流ターミナルについて、福岡市では港湾貨物は集約してある一方、航空貨物はトラック業者任せだが、今後都市計画的に考えなければならないのではないか。
- ・施設の使い勝手を考慮して、前面誘導路やエプロンなどの施設を配置してあると考えてよいか。
- ・西側はエプロンの表記がないが、西側は狭隘化することなのか。
- ・LCC就航用のエプロンやターミナル用地についても、対応可能な配置となっているのか、貨物地区等を整備する際には、協議をさせて頂きたい。
- ・機能としてはミニマムだが、エプロンなど余裕がないように思えるがどうか。ナイトスティエプロンは足りるのか。フレキシビリティの少ない計画では不安なので、

その点についても整理して頂きたい。  
などの意見が出された。

事務局から、委員意見に対して、以下の説明等を行い、了承を得た。

- ・ 拡張用地に係る河川の切替えについては、現状は一部が空港内に素掘で設置されているため、切替えの必要性を含め今後河川管理者や関係者等との調整を行っていく必要があると考えている。
- ・ 貨物地区については、貨物取扱い方法も変わってきており、航空機からコンテナのまま空港外へ搬出（インタクト貨物）が増えてきている状況でもあることから、現貨物地区内の各施設の有効活用も考えると、出来るだけコンパクトな施設にしておくことが可能と判断している。但し、今後、関係者と調整の上で、貨物地区の詳細協議を行っていく必要はあると認識。
- ・ 現在の状況について把握ができてないが、航空貨物についても港湾貨物と同様に考えていく必要があると思っている。
- ・ 施設によっては、エプロンに面している必要性、構内道路に面している必要性等を考慮した上で、ゾーニング図を作成した。
- ・ 需要予測値から必要規模の算出は行っている。但し、ナイトステイスポットについては航空会社の確定した運用方法が、現段階で把握ができないため、想定範囲で検討した。よって、実施に向けては、航空会社へのヒアリング等が必要であると考えている。
- ・ 今回の検討では国際旅客の需要値に基づいて検討していることから、LCCへの対応は検討していないが、現国際線旅客ターミナルビルは必要に応じて北側に拡張していく、一方、現貨物地区は全面移転となることから北側端部から南に向けて整備を行っていく計画となっており、LCC等への対応はその間の用地で可能ではないかと考えている。
- ・ 用地買収面積を縮小したことによる影響が無いわけではないが、国際線側のエプロンは先程の説明通りであり、東側地区のエプロンについては、現空港用地内で、更なる有効活用を行っていく予定であることから、問題は無いと考えている。

### (3)「航空保安施設、工事工程、概算事業費の検討について」

事務局より、航空保安施設、工事工程、概算事業費の検討について説明がなされた。

委員より、

- ・ 増設滑走路の航空灯火は、現滑走路を使用できない場合の運用も想定して計画してほしい。
- ・ 現地着手後の工期以外に別途必要な環境アセスメントなどの期間についても、

ある程度示しておくべき。

- ・ 工期や事業費の増加リスクがあるのならば、その内容を示しておくべき。
- ・ 概算事業費には民間負担分を含んでいることを示しておくべき。

などの意見が出された。

事務局から、意見を踏まえ、航空灯火については運用方法等と併せて今後詳細に検討を行っていくこと、その他についてはP Iに向けてより丁寧な整理を行うこと等の説明を行い航空保安施設、工事工程、概算事業費について了承された。

#### (4)「費用便益分析の検討について」

事務局より、費用便益分析の検討について説明がなされた。

委員より、

- ・ 他空港の事業における費用便益分析の数値はどのくらいか。
- ・ 条件設定において誤解を招かないよう、丁寧に記述した方が良い。

などの意見が出された。

事務局において、意見を踏まえP Iに向けて整理すること等の説明を行い、費用便益分析の結果が了承された。

#### (5)「その他について」

事務局より、今後のP I及びP I後の委員会開催について説明がなされた。

委員より、

- ・ 今回の意見及びP Iの意見を踏まえ、報告を兼ねたかたちでもう一回委員会を開催して頂きたい。

などの意見が出された。

事務局において、P I終了後となる秋以降に開催する方向で後日日程調整を行うこととした。